平成26年度全国学力・学習状況調査

堺市結果概要

堺市教育委員会

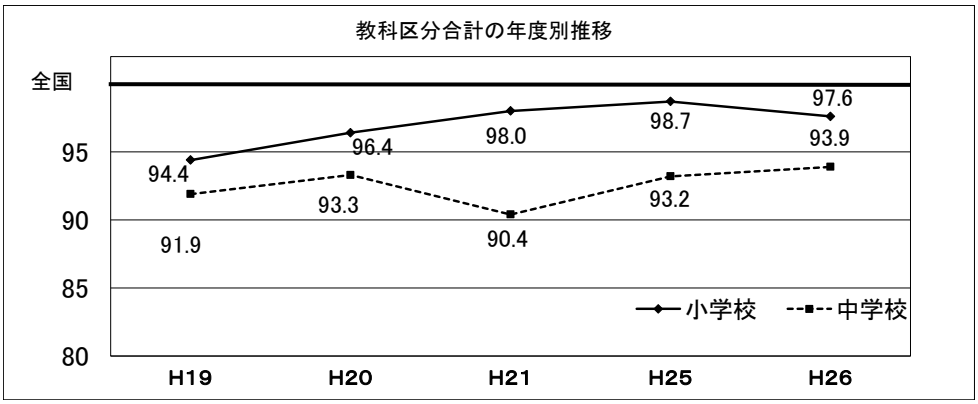
教科に関する調査の結果概要

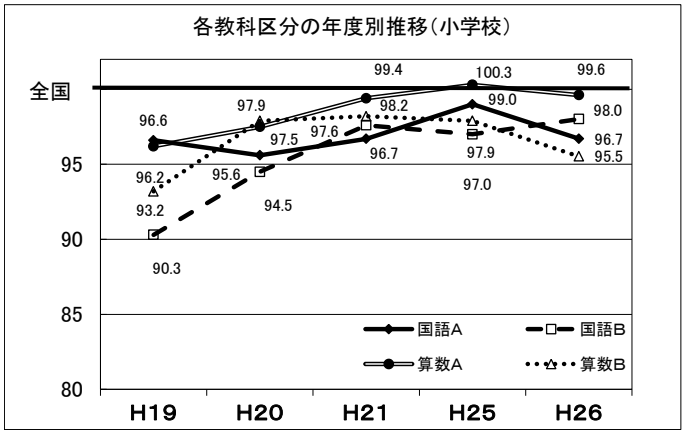
■小学校は、算数A（知識）と国語B（活用）で全国平均と同程度である。
■中学校は、昨年度と比較して、全体的に国との差が縮まっており、改善傾向が見られる。
■無解答率では、小中学校ともに改善傾向にあり、特に小学校は全国よりも良好である。
■正答数分布では、小中学校ともにA（知識）問題で、正答率40％未満の下位層の割合が減少傾向にある。
■平成19年度と比べると全体的には改善傾向にあるが、前回調査と比べて小学校では4区分のうち3区分、中学校では4区分のうち2区分で、全国との差が広がっている。

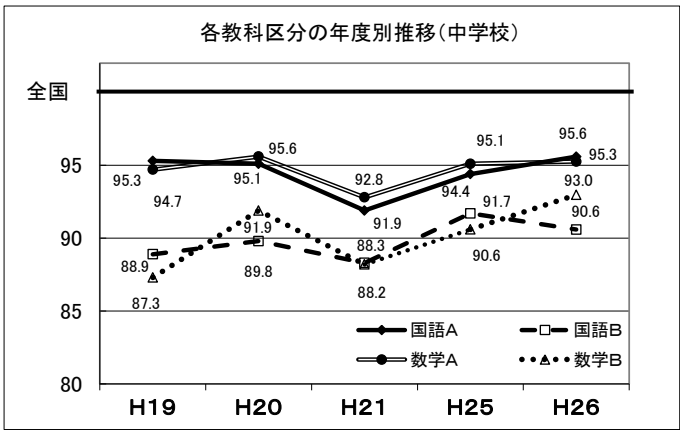
平均正答率の経年比較（全国と堺市）

		H19				H20				H21				H25				H26			
		全国	府	堺市	全国差	全国	府	堺市	全国差	全国	府	堺市	全国差	全国	府	堺市	全国差	全国	府	堺市	全国差
小国	A区分	81.7	79.4	78.9	−2.8	65.4	62.7	62.5	−2.9	69.9	68.2	67.6	−2.3	62.7	61.2	62.1	−0.6	72.9	70.7	70.5	−2.4
	B区分	62.0	58.0	56.0	−6.0	50.5	47.0	47.7	−2.8	50.5	49.4	49.3	−1.2	49.4	47.9	47.9	−1.5	55.5	52.6	54.4	−1.1
小算	A区分	82.1	80.5	79.0	−3.1	72.2	71.2	70.4	−1.8	78.7	78.4	78.2	−0.5	77.2	77.1	77.4	＋0.2	78.1	77.3	77.8	−0.3
	B区分	63.6	60.7	59.3	−4.3	51.6	49.9	50.5	−1.1	54.8	53.8	53.8	−1.0	58.4	57.3	57.2	−1.2	58.2	56.3	55.6	−2.6
中国	A区分	81.6	79.2	77.8	−3.8	73.6	70.5	70.0	−3.6	77.0	72.7	70.8	−6.2	76.4	73.3	72.1	−4.3	79.4	77.0	75.9	−3.5
	B区分	72.0	65.0	64.0	−8.0	60.8	55.2	54.6	−6.2	74.5	68.3	65.8	−8.7	67.4	63.0	61.8	−5.6	51.0	47.2	46.2	−4.8
中数	A区分	71.9	69.4	68.1	−3.8	63.1	60.5	60.3	−2.8	62.7	59.9	58.2	−4.5	63.7	61.7	60.6	−3.1	67.4	65.0	64.2	−3.2
	B区分	60.6	55.3	52.9	−7.7	49.2	45.2	45.2	−4.0	56.9	52.5	50.2	−6.7	41.5	38.8	37.6	−3.9	59.8	56.9	55.6	−4.2

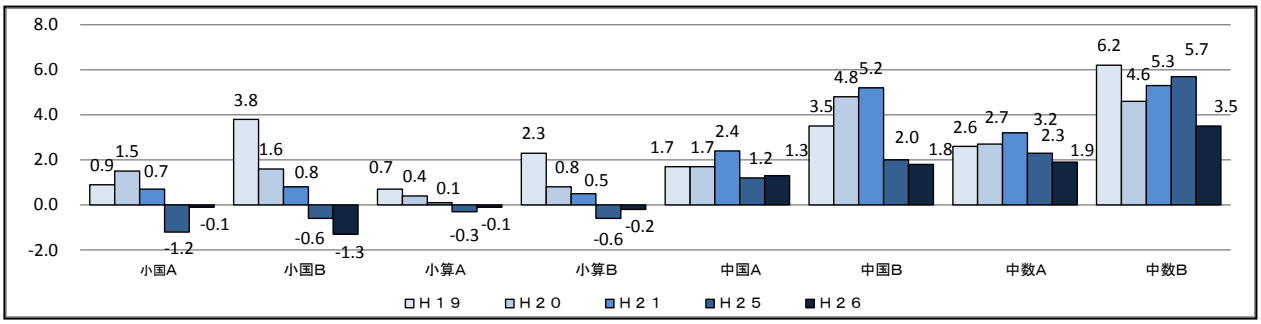
全国平均正答率を100とした場合の堺市平均正答率　経年比較（H19－H26）





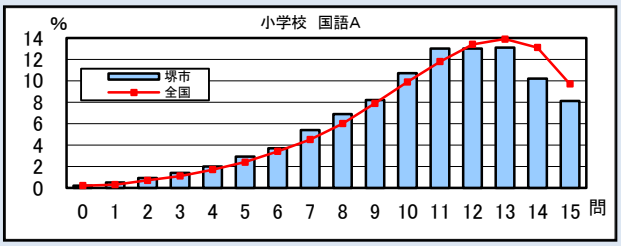


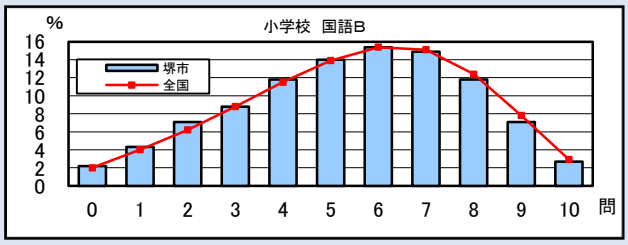
無解答率における堺市と全国との差　経年比較（全国と堺市）

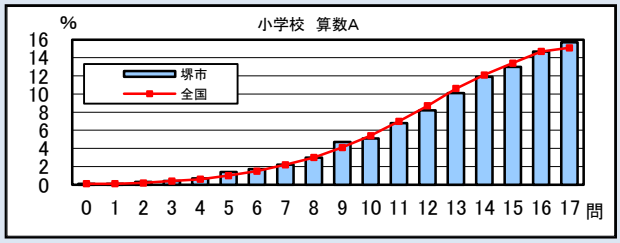


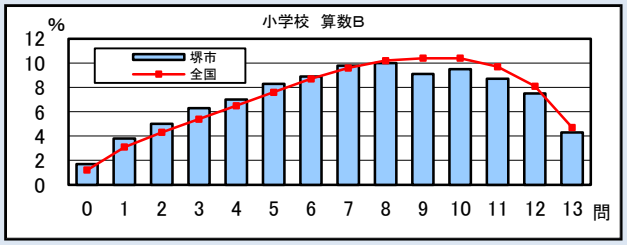
正答数分布（全国と堺市）

小学校

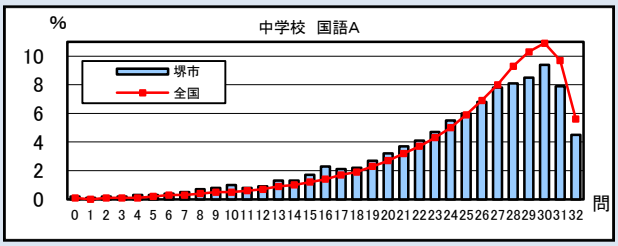


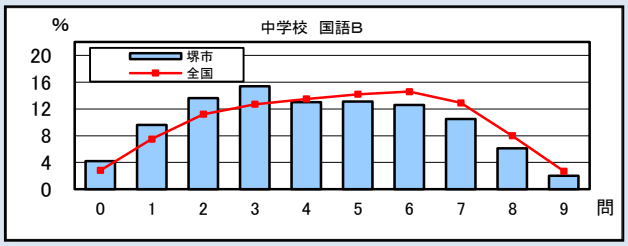


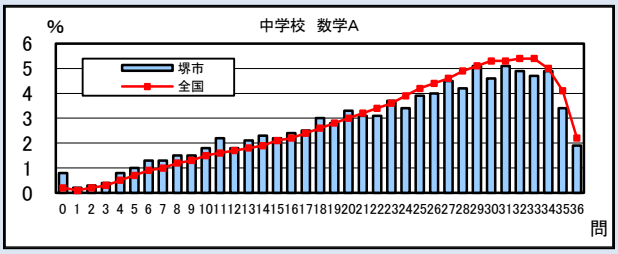


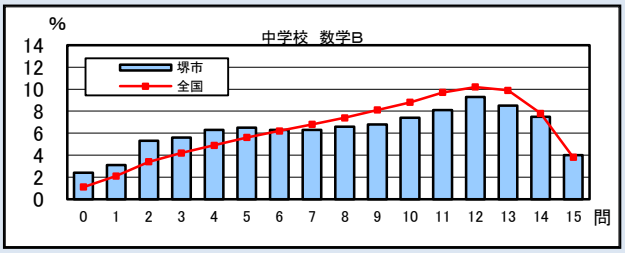


中学校

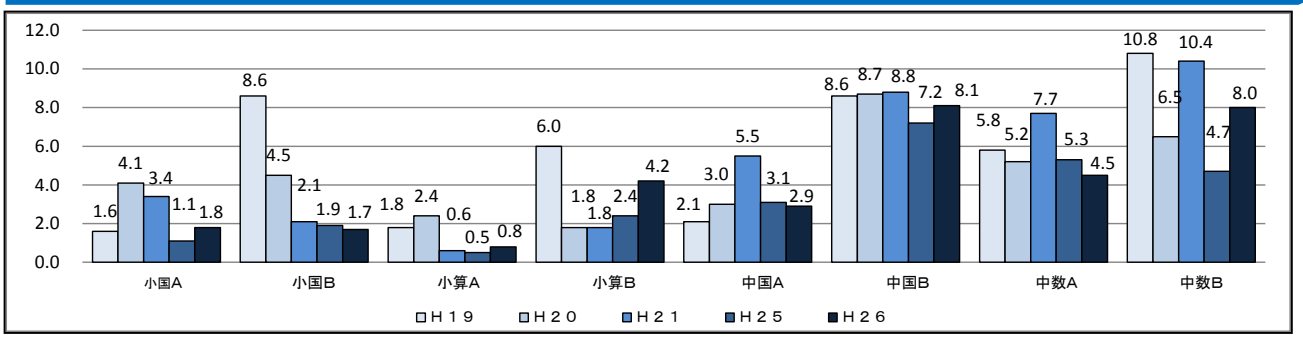








下位層（正答率40%未満）の児童生徒の割合における全国と堺市の差　経年比較（全国と堺市）

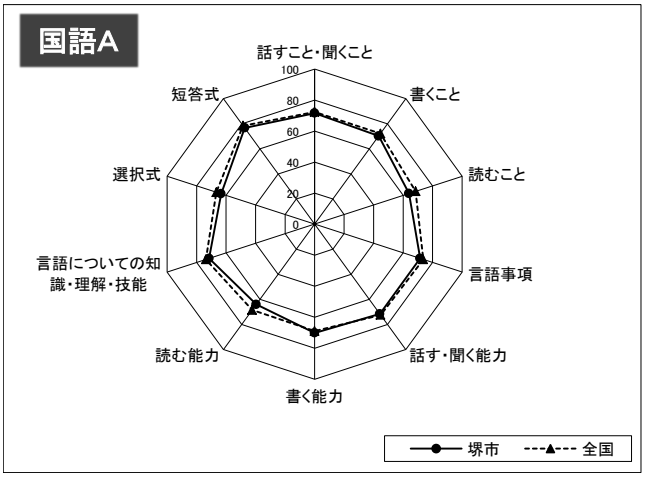


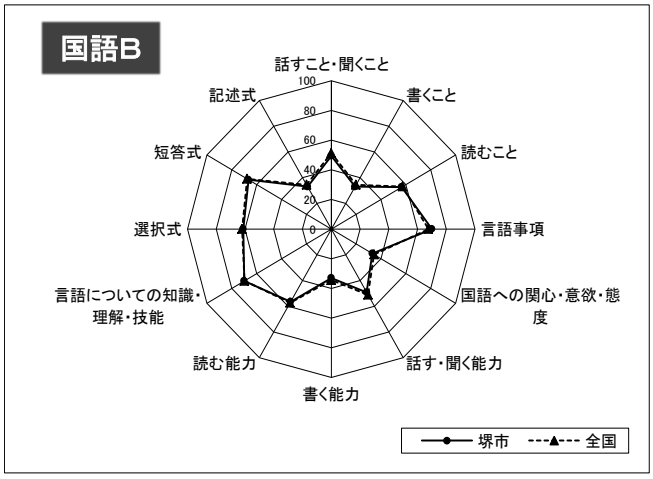
小学校国語

●A問題の「国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する」問題（言語事項）で、全国平均を上回っているなど、日頃の丁寧な学習指導の成果が表れた。
●B問題では、「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係づけながらまとめて書く」問題（書くこと）で正答率が低いなど、立場を明確にしたり、読んだことと考えたことを相互に関係づけながらまとめたりすることに課題がある。

領域・観点・問題形式別の結果 （全国と堺市）

分類	区分	A問題（１５問）			B問題（１０問）		
		対象設問数	平均正答率（%）		対象設問数	平均正答率（%）	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	71.6	72.4	3	49.3	51.2
	書くこと	3	70.2	72.2	3	33.0	34.4
	読むこと	2	64.0	68.5	7	56.6	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	71.5	73.7	2	70.0	69.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	―	―	3	33.0	34.4
	話す・聞く能力	1	71.6	72.4	3	49.3	51.2
	書く能力	3	70.2	72.2	3	33.0	34.4
	読む能力	2	64.0	68.5	7	56.6	57.3
	言語についての知識・理解・技能	12	71.5	73.7	2	70.0	69.8
問題形式	選択式	7	63.4	66.6	4	61.3	62.1
	短答式	8	76.7	78.5	3	66.5	67.7
	記述式	0	―	―	3	33.0	34.4





■B問題では、書くこと（書く能力）で低い値を示すなど、概ね全国と同様の傾向が見られる。A問題の読むこと（読む能力）については、全国平均を4．5P下回っており、課題である。

今後の取組

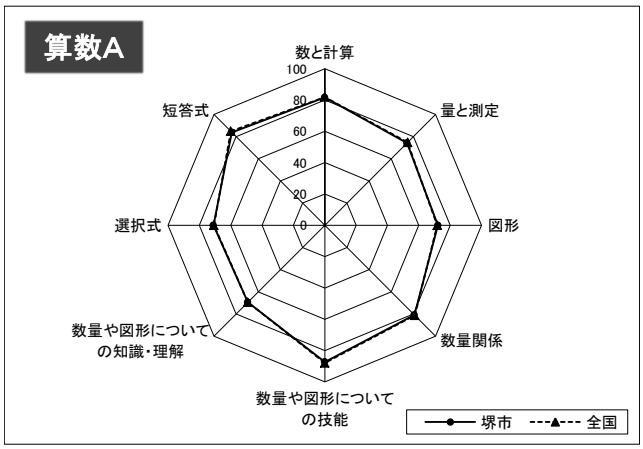
●漢字の読み書きや目的に合わせた文章の書き方など、基礎的・基本的な内容の定着に向けた反復学習を継続的に行う。
●複数の情報を関係づけながら、「引用する」、「一文にまとめる」、「『例えば』という言葉を使って具体的な事例を示す」など、条件に合わせて文章を書く指導を充実させる。
●意見文、パンフレット、投書など様々な種類の文章に触れさせ、表現の仕方の違いを理解させるとともに、目的に応じて、様々な種類の文章を書く指導の充実を図る。

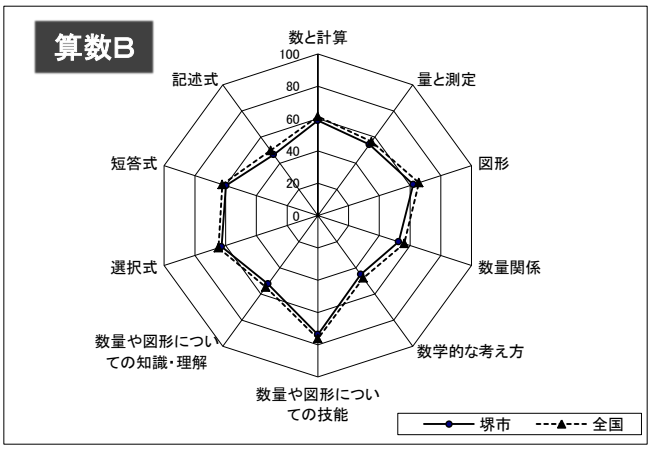
小学校算数

●A問題では、これまで課題であった分数、単位量当たりの大きさ、円周を問う問題において、全国平均を上回るなど、基礎的・基本的な内容の定着を図る取組の成果が表れた。
●B問題では、日常生活や他教科と関連づけた問題の正答率が低い。また、提示された情報を基に解答を導き出し、その理由を記述することに課題がある。

領域・観点・問題形式別の結果 （全国と堺市）

分類	区分	A問題（１７問）			B問題（１３問）		
		対象設問数	平均正答率(%)		対象設問数	平均正答率(%)	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領の領域	数と計算	8	81.6	81.8	8	58.8	61.3
	量と測定	3	74.2	74.8	5	54.3	56.5
	図形	4	72.2	71.8	1	62.1	65.7
	数量関係	3	80.9	81.3	5	52.6	56.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	―	―	0	―	―
	数学的な考え方	0	―	―	6	45.1	47.8
	数量や図形についての技能	8	87.2	87.9	4	73.7	76.2
	数量や図形についての知識・理解	9	69.5	69.5	3	52.4	54.8
問題形式	選択式	8	71.0	70.7	4	62.7	64.7
	短答式	9	83.9	84.8	4	59.8	62.2
	記述式	0	―	―	5	46.6	49.7





■A・B問題ともに、「数量や図形についての技能」で高い値を示すなど、概ね全国と同様の傾向が見られる。A問題の図形は、全国平均をやや上回っている。B問題の「数学的な考え方」は、引き続き課題である。

今後の取組

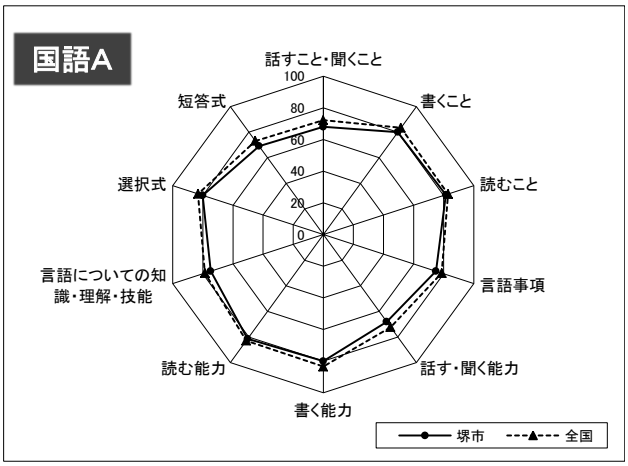
●日常生活の具体的な事象から数量の関係を見つけて式を書いたり、言葉や図・表で説明したりする学習や他教科との関連を図った指導を充実させる。
●提示された資料から、問題の解決に必要な数値を選択したり読み取ったりして根拠となる事実を捉え、言葉や数、式、図、表、グラフなどと関連づけて説明する指導の充実を図る。その際、表現したことを振り返り、比較する対象が明確になっているか、説明の根拠となる情報が示されているかを確認するなど、子どもが振り返り、考える指導場面を工夫する。

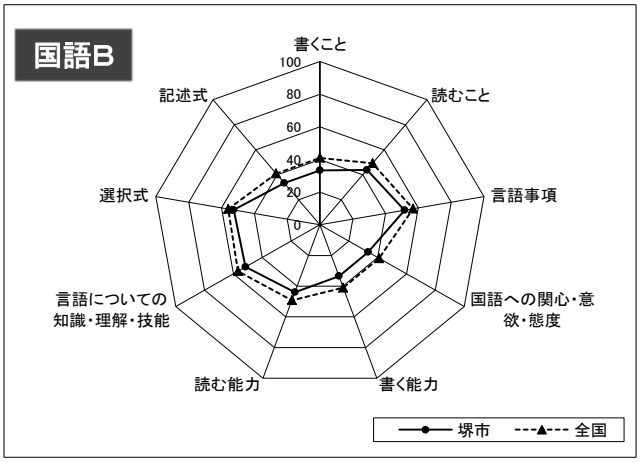
中学校国語

●A問題の「漢字を正しく書く、読む」問題（言語事項）では、正答率が全国平均より大きく下回っており、漢字を読むこと、書くことなどの基礎的・基本的な内容の定着に課題がある。
●B問題では、資料から必要な情報を選択し、伝えたい事実や事柄について根拠を示しながら明確に書くこと、文章の構成や表現の仕方について自分の考えを書くことに課題がある。

領域・観点・問題形式別の結果 （全国と堺市）

分類	区分	A問題（３２問）			B問題（９問）		
		対象設問数	平均正答率（%）		対象設問数	平均正答率（%）	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	68.1	72.3	0	―	―
	書くこと	6	80.0	83.4	3	33.4	41.0
	読むこと	5	81.4	82.9	8	43.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	74.8	78.7	4	51.6	56.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	―	―	3	33.4	41.0
	話す・聞く能力	4	68.1	72.3	0	―	―
	書く能力	6	80.0	83.4	3	33.4	41.0
	読む能力	5	81.4	82.9	8	43.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	17	74.8	78.7	4	51.6	56.8
問題形式	選択式	20	80.1	83.2	6	52.6	55.9
	短答式	12	69.1	73.1	0	―	―
	記述式	0	―	―	3	33.4	41.0





■A・B問題ともに、言語事項で高い値を示すなど、概ね全国と同様の傾向が見られる。A問題では、「読む能力」で全国平均と同程度の値を示している。B問題では、「国語への関心・意欲・態度」と「書く能力」で全国平均を大きく下回っている。

今後の取組

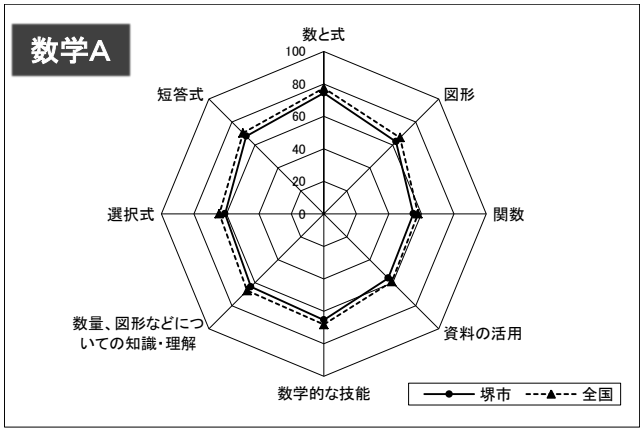
●漢字の読み書きや目的に合わせた文章の書き方など、基礎的・基本的な内容の定着に向けた反復学習を継続的に行う。
●文章の構成や表現方法についての理解を深める指導を充実させる。
●複数の条件に従って考えを書く学習を積極的に取り入れるとともに、書いた文章が全ての条件に合っているかなど、振り返って吟味する指導の充実を図る。

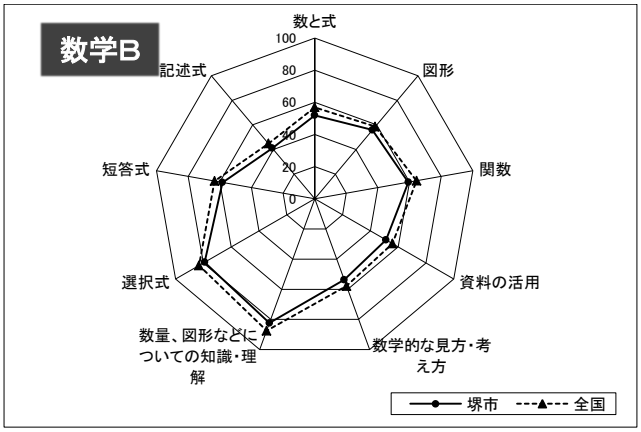
中学校数学

●A問題の「数と式」では、全国平均を上回る問題が見られるなど、基礎的・基本的な内容の定着を図る取組の成果が表れた。
●B問題では、数学的な表現形式である表、式、グラフなどを読み取るとともに、それらを的確に活用して問題解決することに課題がある。

領域・観点・問題形式別の結果 （全国と堺市）

分類	区分	A問題（３６問）			B問題（１５問）		
		対象設問数	平均正答率(%)		対象設問数	平均正答率(%)	
			堺市	全国（公立）		堺市	全国（公立）
学習指導要領の領域	数と式	12	74.4	77.4	3	51.9	56.9
	図形	12	62.9	66.4	5	55.9	58.6
	関数	8	55.1	58.0	5	59.2	64.4
	資料の活用	4	56.0	59.1	2	51.3	55.9
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	―	―	0	―	―
	数学的な見方や考え方	0	―	―	14	53.7	57.9
	数学的な技能	15	65.3	68.2	0	―	―
	数量や図形などについての知識・理解	21	63.5	66.8	1	82.4	87.5
問題形式	選択式	18	60.9	64.4	3	79.1	83.2
	短答式	18	67.6	70.4	6	58.3	63.3
	記述式	0	―	―	6	41.1	44.8





■A・B問題ともに、「数量、図形などについての知識・理解」で高い値を示すなど、概ね全国と同様の傾向が見られる。A問題では、「数と式」で最も高い値を示している。B問題の記述式問題は、引き続き課題である。

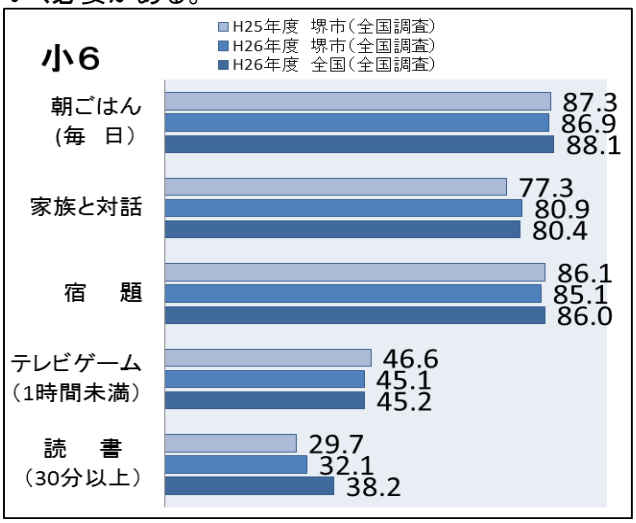
今後の取組

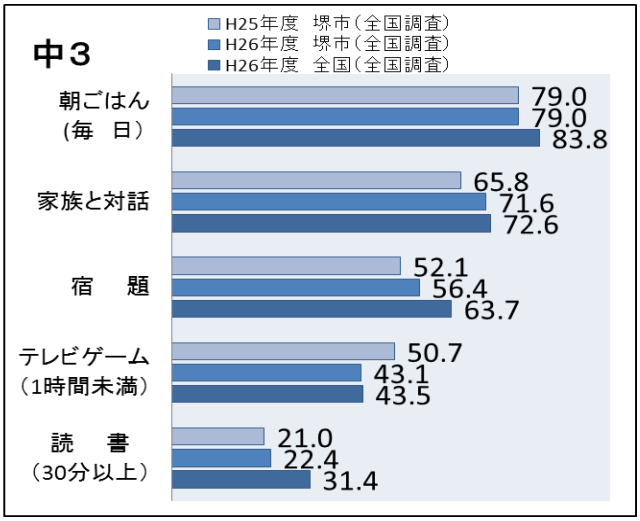
●表、式、グラフを相互に関連付け、式やグラフの形から関数を判断する指導を充実させる。
●様々な問題を解決する際に、資料（グラフ、表）から必要な情報を的確に読み取ったり活用したりするなど、数学的に説明する指導の充実を図る。

学習・生活状況に関する調査の結果概要

◆家での7つのやくそく　～「読書」が小中学校ともに増加。中学校は全体的に改善傾向～

小中学校ともに、家で30分以上読書をしている児童生徒の割合が増加しており、朝の読書活動や読書ノートなどによる読書活動の充実に向けた取組の成果が表れている。また、小学校で朝ごはん、宿題、ゲーム、中学校で朝ごはん、ゲームにおいて、なお課題があり、家庭との連携を一層深め、児童生徒の生活改善につなげていく必要がある。

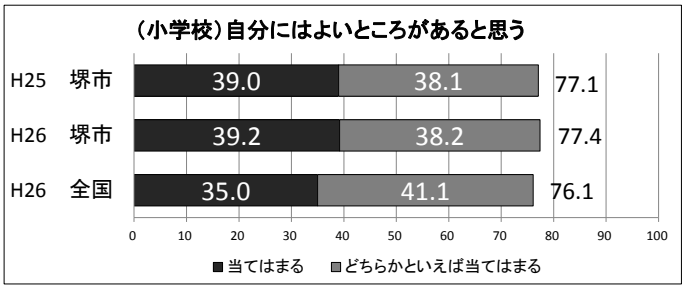


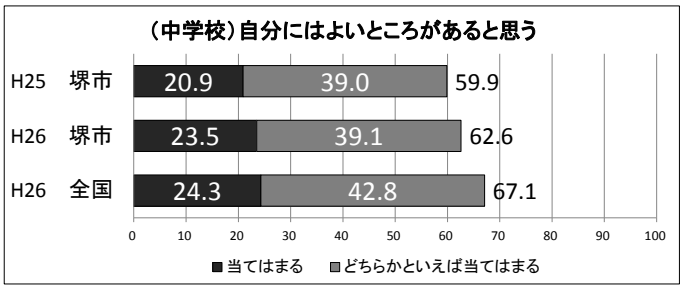


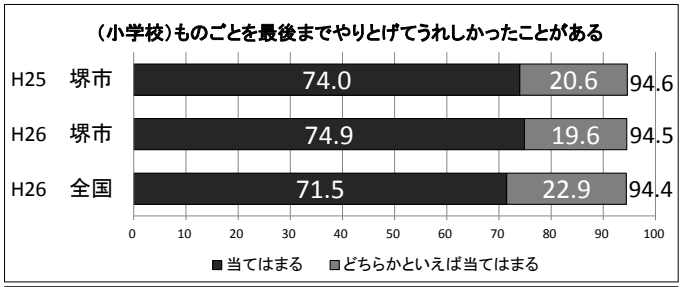
◆自尊感情・達成感を育む教育　～「よいところがある」と思う割合は全国平均を上回る～

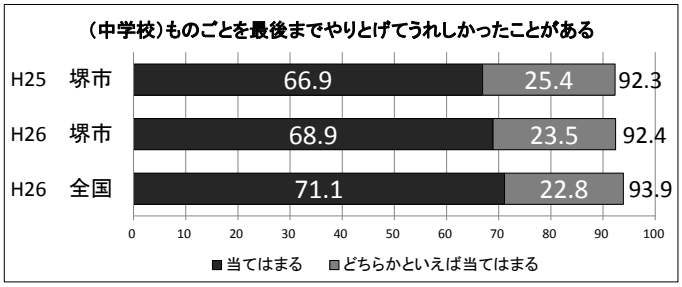
昨年度に引き続き、小中学校とも「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合が増加しており、小学校では全国平均を上回っている。また、達成感や挑戦する態度は改善傾向にある。

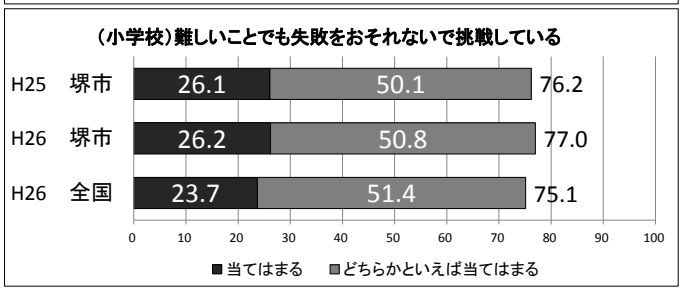
自尊感情に関する項目全般で、昨年度より改善しており、各校のこれまでの取組の成果が表れている。引き続き、教育活動全般を通して、子どものよさを伸ばす取組を進める。

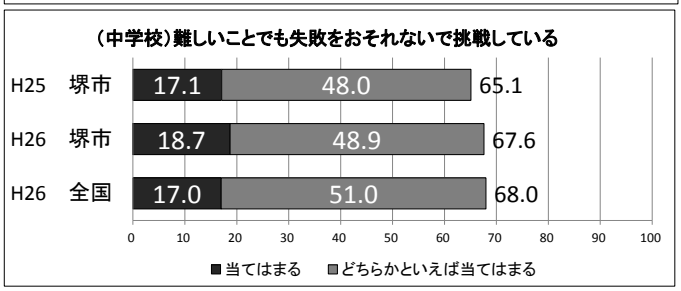








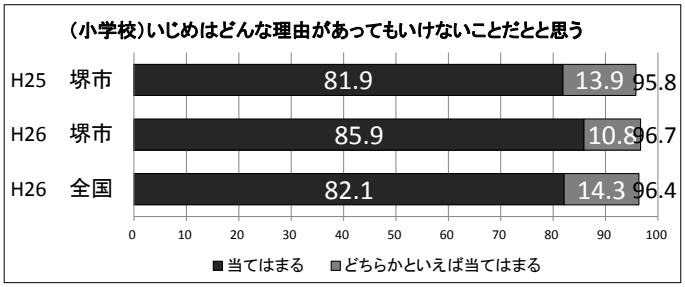


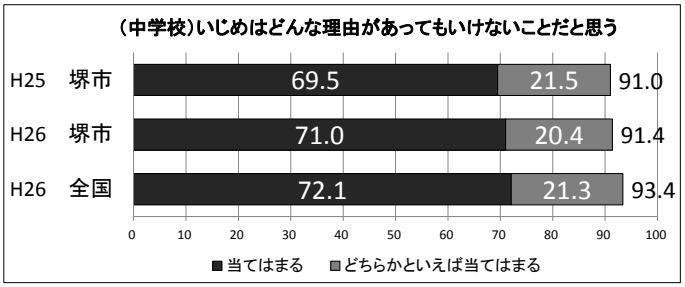


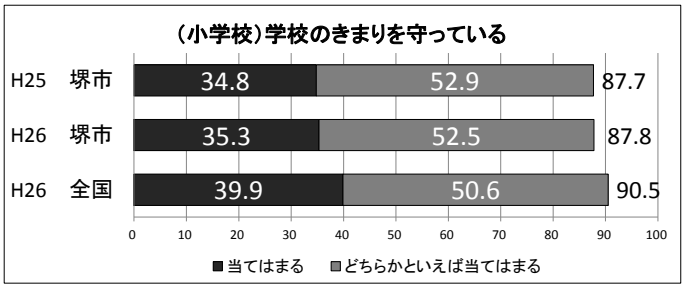
◆安心できる教育環境づくり　～引き続き、人権尊重を基盤とした教育活動を推進する～

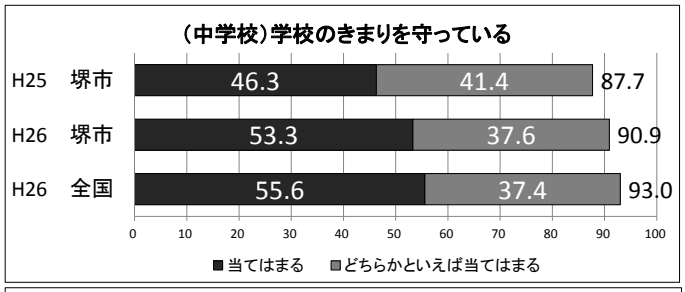
「いじめはいけないことだと思う」と思う児童生徒の割合は、9割を超え、昨年度より増加した。また、「学校のきまりを守っている」「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合も昨年度より増加した。

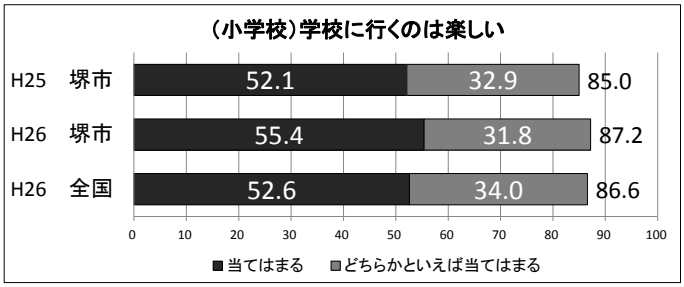
各学校が生徒指導方針や学校いじめ防止基本方針を明確にし、組織的で一貫性のある指導を行ったことが、児童生徒の意識の向上につながっている。引き続き、人権尊重を基盤とした教育活動を推進する。

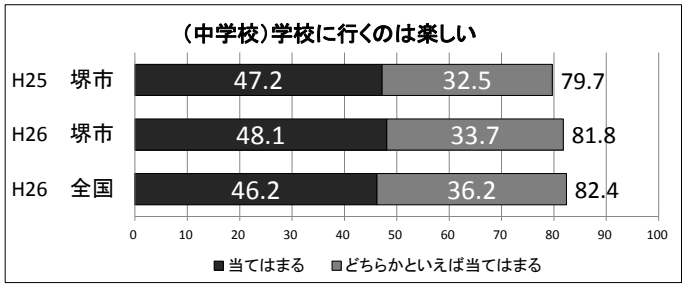


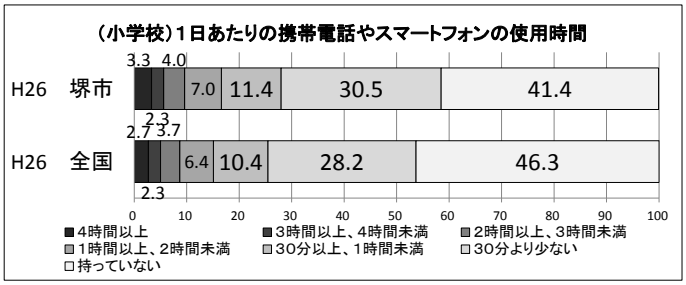
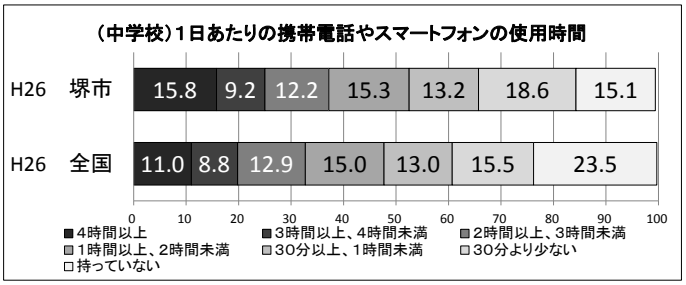
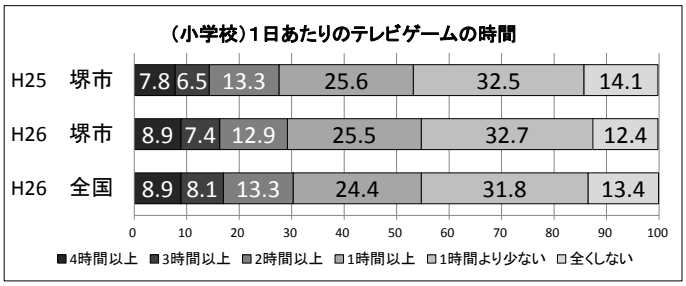
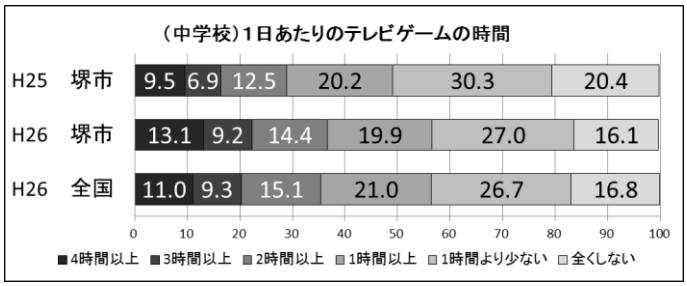










◆増加する携帯電話やスマートフォンの使用時間　～家庭と連携した指導を進める～

携帯電話やスマートフォンでは、1時間以上使用している児童生徒の割合が、小学校で16.6%、中学校で52.5%であり、全国と比較しても高い。また、長時間テレビゲームをする児童生徒の割合も増加傾向にある。携帯電話やスマートフォンの正しい使い方について、今後一層、家庭との連携を深め、児童生徒の生活改善につなげる。